



START

美しい



のぞいてみよう Oita景観ものがたり 一大分市景観まちづくりガイドブック 2021.3

発行=大分市都市計画部まちなみ企画課

企画・編集=国立大学法人大分大学理工学部建築・都市計画研究室 + 姫野由香

ディレクション・デザイン=高上旭デザイン事務所 + 山本展久アトリエ荒川企画室

ライティング・編集支援=安達博子

撮影=スタジオZero 竹内康訓

「景観まちづくりすごろく」の結果はいかがでしたか？
なにげない日常の風景も、よくよく「のぞいてみると」、豊かな自然、歴史や文化、そこで営まれる私たちの暮らしによって、形づくられています。
本誌で紹介したのは、日々の暮らしや営みのなかで、景観を支えている方々です。住んでいるまちを、今より良くするひと工夫には、いろいろな方法があるようです。
「大分市景観計画」では、今を生きる私たちや、未来の大分市民の共有財産である「景観」を守り・育むための、具体的な方法を紹介しています。
私たちにも、できることがあるかもしれません。
一緒に、景観まちづくりを楽しみましょう！

※2020年6月に「大分市景観計画」を改定しています。

詳しくは大分市まちなみ企画課またはホームページでも紹介しています。

http://www.city.oita.oita.jp/o170/keikan/keikaku_jyourei/keikaku.html



のぞいてみよう
ita
景観ものがたり

大分市景観まちづくりガイドブック

景観まちづくり STREET

日々のちょっとしたアクションは、魅力的なまちづくりに繋がっています。あなたの想う大分市は、どんなまちですか？さあ、一緒に景観まちづくりの旅に出かけましょう！

近所を掃除している人に
“ありがとう”的な気持ちを伝える

家の周りや近所を
植物や花などで彩る

手にしたこの
「景観まちづくりガイドブック」を
読んでみる

START

A 身近なまちを観察してみよう

SNSに映えスポットの
写真を投稿する

B まちを楽しもう

地域の行事や
清掃活動に参加してみる

まちの意見交換会などに
参加してみる

C まちを知ろう

大分市景観計画を
読んでみる

D まちに出て実践しよう

まちづくりについて
まちの人と話をする

まちあるきの
案内人になる

地域の方々が
集まる機会をつくる

祭りやイベントを
企画してみる



アガパンサス命



A
[郊外の住宅団地]
ふじが丘
身近なまちを観察してみよう



団地の斜面を彩る 愛情たっぷりに育まれた季節の花々

大分市では1964年の新産業都市の指定以降、急速に増加する人口の受け皿として、郊外型団地がいくつも整備された。“ふじが丘”もその一つだ。ここに住む一組の夫婦が始めたユリ科のアガパンサスの花植えは隣保班に広がり、今では自治会をあげて取り組む活動に成長した。かつては雑木で荒れていた斜面にも、薄紫色のアガパンサスや、紫陽花に彼岸花など、季節折々の花々が広がる。

斜面を彩る花々にくわえて、作業風景も壮観です。



interview

約22年前、5~6人に声をかけて土手の草刈りや雑木の撤去を始めたのがきっかけです。きれいになった斜面になにか花を植えようと、いろんな種類を試しましたが、水捌けや日当たりの問題でうまくいきませんでした。そんな時に、近所

で植わっていたアガパンサスを10株分けてもらいました。年々株の数は増えていき、少人数でのお世話が大変になっていた時、発起人のお一人が他界されたのです。絶やしちゃならん!と2016年からは自治会が中心となり、年に6回ほ

ど花の世話をしています。「毎年楽しみにしているよ」という声を聞くと、とても嬉しいですね。手入れには20~45人が参加しますが、その人數がこの斜面で黙々と作業している様子は、特に「壮観」です。これもまた、ふじが丘の自慢です。



A [河川沿いの田園地帯]
の つ は る
野津原棚田
身近なまちを観察してみよう



棚田と里山を彩る季節の花々

二つの一級河川が流れる大分市。その水源地の一つが野津原だ。古くは"工藤三助"により整備された井路により、河川より高い土地にも棚田が広がる。七瀬川の谷戸に広がる棚田や集落を抱く里山が郷愁を誘う野津原。毎年夏には"三助祭り"が開催される。そこに息づく季節の花々に、暮らす人々の温かさが垣間みえる。



大好きな花をきっかけに
みんなが集まる場所ができたらいいですね。

interview

知らないうちに、この土地を守るという責任感が芽生えていたかもしれません。地元に帰ってからは、農業を継ぐだけではなく、新しい挑戦もしたいと、大好きな花卉の栽培を始めました。昔は隣保班のみんなで田植えや稲刈りを行なっていましたが、圃場整備や機械化といった農業の効率化の陰で、みんなが"寄る"ことが少なくなっていました。

それで、地域の人たちが集まる機会をつくろうと、2016年頃から花の苗を植える活動を始めました。苗を各班に配布したり、苗を植える作業は、みんなの様子が分かる大切な時間となっています。こうやって景観を「つくる」こともできますが、昔から続く祭りや風景を「守る」ことも大切です。でも、守るのは自分たちだけでは難しいこともありますね。この郷愁を誘う山並みを大切にする取り組みが必要だと思っています。





[臨海部の公園・広場]

かんたん港園

まちを楽しもう



近寄りがたい港をみんなのオアシスに

西大分港近くの「かんたん(菡萏)」交差点。別府湾の風景が、開きかかった蓮の花「菡萏」を連想させることから、この名がつけられた。古くから上方との交流が盛んなこの場所は、夏の終わりを告げる祭り「浜の市」のおひざ元でもある。90年代頃までは空き倉庫や放置ゴミの問題もあったが、現在は、九州と本州や四国を結ぶ重要な海路の玄関でもある。

「ときめき」を共有して 海辺の魅力を伝えつづけた20年

地元新聞社や金融機関、若手経営者や行政が連携して、大分ウォーターフロント研究会を設立。かつて「市(いち)」が立ったこの場所に、訪れた人をときめかせる「場」を演出してみせた。放置ゴミの回収から始め、空き倉庫のリノベーションや様々なイベントを通じて、"海辺の魅力"を発信している。2011年に、ウッドデッキや芝生公園として再生を果たし、来訪者をときめかせる日常が広がっている。



NPO法人みなとまちづくり 専務理事
早瀬康信さん

みんなの魅力を発信し続け20年
様々な縁をつむぎながら
天国のような「かんたん港園」を支える

別府湾の夜景が眺められる最高の場所にしたい

そんな想いから始まったんです。

interview

西大分港の一角にある建物から見た美しい景色が忘れられず、ここを別府湾の夜景が楽しめる最高の場所にしたい!という想いから復活プロジェクトが始まりました。ウォーターフロント研究会には、別府湾に面する全ての自治体が参加しています。こんなにまちと海が近い場所は他にはありません。その魅力を知って欲しいと様々な取り組みを行ってきました。

2004年にできた小さなショッピングモール「かんたんサーカス」からは魅力的な経営者たちを輩出し、今でも賑わいを見せています。園内にある英国から取り寄せたガス灯や、365日咲く花々は、地元企業の寄付や自治会、チャーチクラブの方々の尽力で実現しており、かんたん港園の誇りです。私もこの場所に立つと幸せな気持ちになりますし、訪れた方々の「すてき♪」という言葉に喜びを感じています。これは創り手のエネルギー源であり、まちづくりの原点だと思いますよ。

大分市の景観は3つの特徴から成り立っています。

1 歴史・文化

中世に大友宗麟公による南蛮貿易で栄え東九州の玄関口として交通の要衝にありました。また、旧街道沿いには、宿場町や在町の跡が現在も残されています。戦後は急激な都市化に対応するため、郊外の住宅地開発など、都市の拡大が急速に進められました。



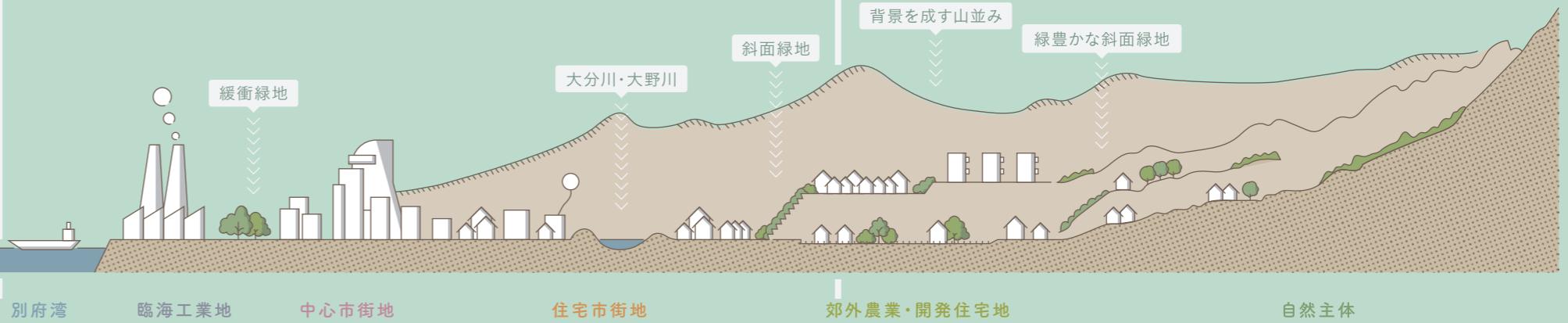
年表

中世	21代当主大友宗麟(キリスト信教)が日本で初めて西洋式の病院を建てるなど、南蛮文化を広める
▽	幕府の幕藩体制により、大分の大部分が府内藩に→内城の完成
戦後	1945 大分大空襲により、市街地はほぼ全滅
1959	海岸線に埋め立て地の造成開始(大分川左岸から大野川左岸に至る)
1963	昭和の大合併により、大分市が合併(大分市、鶴崎市、大分郡大分町、大南町、北海部郡大在村、坂ノ市町)
1964	新産業都市の指定により、新日本製鐵など大工場が建設(人口21万人(1963年)から40万人(1993年)に増加)
2005	平成の大合併(合併特例法)により大分市と佐賀関町と野津原町が大分市に合併



2 産業・暮らし

別府湾に沿って、臨海工業地、大分・鶴崎の中心市街地、住宅市街地が続きます。郊外農地・開発住宅地が混在する景観は、大分市の特徴でもあります。さらに、その周辺には自然が主体の地域が広がっています。



大分市では、山、海、川などの「自然・地形」をベースに、古代から現代までに至る人々の「歴史や文化の営み」「産業や生活の営み等」この3つの総体として、人の目に映るものを景観と呼んでいます。

3 自然・地形

大分川、大野川が潤す大分平野を中心とし、北側は別府湾、残る三方は高崎山、鎧ヶ岳(よろいがたけ)、靈山(りょうぜん)、九六位山(くろくいさん)など、海と山に囲まれた豊かな自然景観を有しています。



※本頁は「大分市景観計画」から一部引用の上、編集しています。



[歴史的町並み]

戸次本町

まちを知ろう



今でも残る歴史的なまち並み

城下町以外で商いが許された「在町（ざいまち）」でもあった戸次本町。大野川の海運とともに栄えた日向街道の要衝として江戸時代には大変な賑わいをみせた。奇跡的に戦火を逃れた戸次本町の要「帆足本家」をはじめ、江戸時代末期から戦前にかけて建てられた歴史的建造物群は、現役で活用されている。当時の面影が今でも随所に残る、おおいたの宝ともいべき場所だ。

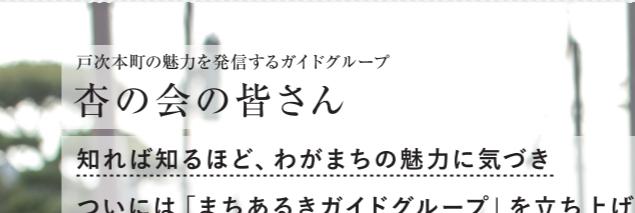
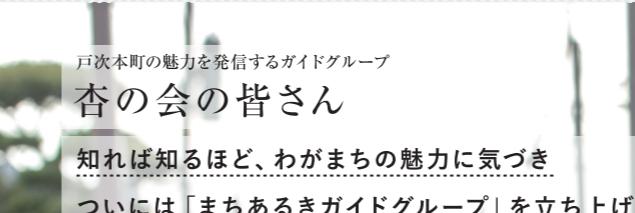
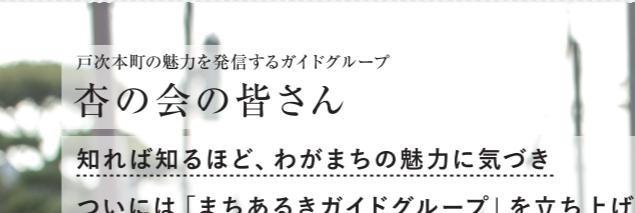
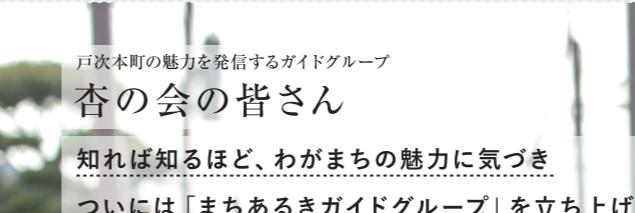


interview

子育てが落ち着き、ふと我がまちを眺めいたら、その良さを再認識。「もっとまちを知りたい！」と、ご近所さんを集めて勉強会を開いたのがスタートです。知れば知るほど、まちで培った文化や歴史を多くの人に伝えたいという想いが募り、2010年に街並みガイドグループ「杏（あ

んず）の会」を結成しました。由来はこの地が育んだ文人画家「帆足杏雨（きょうう）」です。ガイドを体験した方々から届くお礼のお便りが、何よりの励みです。また、戸次は大野川のおかげで土壤が豊か。ここで採れるゴボウは自慢の一品です。ガイド以外にも、郷土料理「ホウチョウ」と、試行錯誤しています。

の普及活動やゴボウを用いた食品の製造・販売を行うなど、「食」を通して魅力を発信する活動も行っています。最近は、地元の小中学校と絵画コンクールをしたり清掃活動も行っています。今後は、若い人も一緒に活動できる取り組みをと、試行錯誤しています。



このまちの魅力を
ガイドや食を通じて
発信したい。

この通りはジャズが良く似合います。



D [中心市街地] 府内五番街

まちに出て実践しよう



文化の発信拠点として

ノスタルジックな石畳が広がる府内五番街には、スパイスが効いたアパレルショップや雑貨店、心地よいカフェやレストランが軒を連ねる。ここはかつて城下町とお城の接点だった場所。西洋文化を受け入れ、前衛芸術を志向する若者を支えてきた、時代の最先端をゆく感度の高い歴史をもつ。

通りに似合う音楽とアート 歩くだけで楽しくなる通り

1994年、ランドマークの赤レンガ館(旧二十三銀行本店)と呼応するようにスラロームの石畳にハナミズキが薫るオープンモールへ。ゆかりある芸術家のブロンズ像や絵画などが通りに彩りを添える。商店街組合による音楽や芸術を核にしたイベントも開催され、オンリーワンの魅力を放つ。



Interview

赤レンガ館や石畳のある個性を活かそうと季節のデコレーションや、流す音楽を考えています。なかでも「JAZZフェス」は、旧ジャズBARの店主の“音楽を広めたい”という想いをきっかけに2014年からスタート。今では県内外から演奏者が集まるほどのイベントになりました。その光景を見るたびに“ジャズはまちの歴史や個性とマッチしているなあ”と実感します。

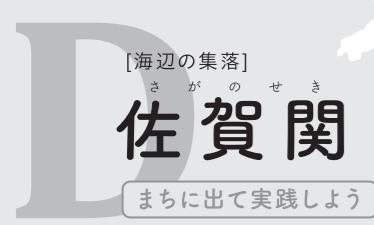
また、訪れた方に心地よく過ごしてもらえるよう、積極的に休憩スペースや緑を配置しています。テーブルセットや並木、プランターの世話は、通り沿いの店主たちが協力して行なっています。商店街がコミュニティの場・文化や音楽を愛する人たちの「たまり場」となっている様子に、達成感や喜びを感じています。

商店街に訪れる人々を

季節感のある植物やくつろぎ空間
ジャズの生演奏で迎えるイベントを開催

府内五番街商店街振興組合 副理事長
藤井俊之さん





浦の恵みにひと手間かける

日本屈指のブランド魚「関あじ・関さば」をはじめとした高品質な海産物を誇る佐賀関。磯の青石を積みあげた石垣や、照葉樹の混ぜ垣が集落を守る。柑橘の段々畑が広がる裏山では、古くは甘藷(かんしょ)の栽培も行われていた。浦々の移動が船であった時代は、出かけるのもひと苦労。だからこそ、浦でとれる恵みにひと手間かけて各地に届けた。そんな生業が、「海がきれいじゃないと浦の恵みもない」と生きてきた集落を、今もなお支えている。



海がきれいじゃないと
海藻も貝も魚も獲れない。
この海は宝だよ。

佐賀関の海産物を加工して生業に
恵みを産む海に感謝し、守り、共に生きてきた

佐賀関加工グループ 代表
都 紀三子さん

interview

きっかけは、10人くらいの婦人部で結成された生活改善グループです。皆で集まって、煮干しやひじき煮などを作っていました。集落内での婚姻が当たり前だった時代に私は外からお嫁に來たから、こうして何かを作ることで、ここにと

け込めた気がします。今も現役で海に入って漁をしていますよ。「今年も元気で海に入れてよかったです」と毎年感謝しています。それもこの豊かな海があってこそ…。この地区では、最後まで汚水を海に流すことをせず、今も集落の誰かが浜辺



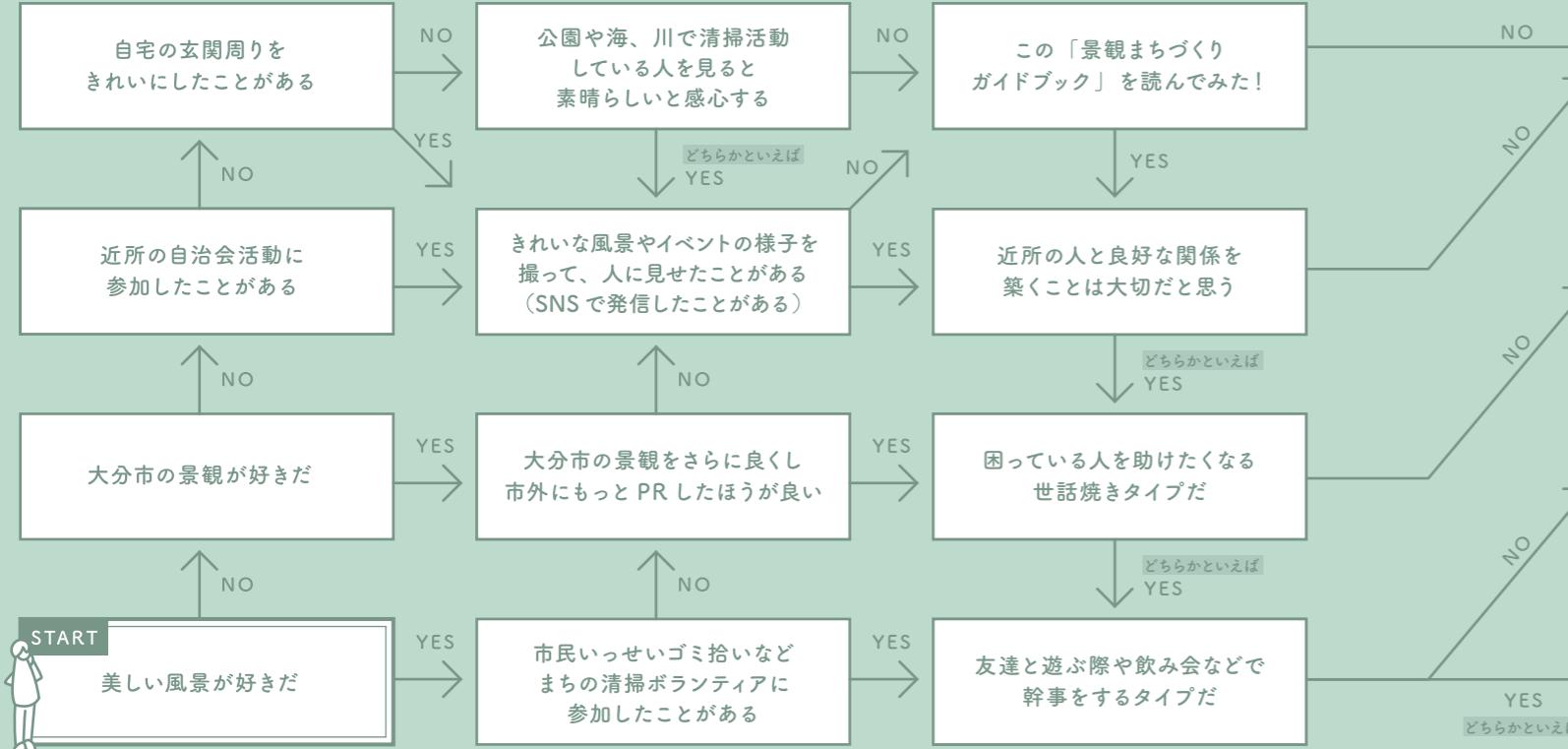
の清掃を必ず行ってくれています。大切なのは「海を守ること・恵みを得ること・恵みを無駄にしないこと・挑戦すること」。この生業をきっかけに、この地に関わってくれる若い人が増えるといいなと思います。

景観まちづくり

CHART

あなたはどのタイプ?

魅力的なまちづくりには、皆さんのアクションが不可欠。
さあ、あなたも景観まちづくりへの参加シミュレーションをしてみませんか？



身近なまちを観察してみよう

このガイドブックをぜひ読んでみてください。ご近所さんと交わす挨拶や、玄関前のおそうじ・ベランダや庭木の手入れなど、身近なまちの身近な景観に目を向けることも、景観まちづくりを支えています。



まちを楽しもう

まちあるきツアーや清掃活動、お祭りなど
地域のイベントに参加して、みんなと一緒に楽しみながら
景観まちづくりに取り組むのがおすすめです。



まちを知ろう

おすすめは、まちづくりセミナーや勉強会に参加したり
まちの歴史や文化などの情報収集や「大都市景観計画」を読んで
みて、地域について知ることからはじめると良いです。



まちに出て実践しよう

世話好きなあなたは、地域の魅力を発信したり
自らイベントを企画したりして
景観まちづくりをリードできそう！

